

「マラウイの挨拶」

こんにちは。私は、アフリカのマラウイ共和国に家畜飼育隊員として、今年 1 月に着任しました。主な活動は JICA とマラウイ政府共同で行っている「農民人工授精師養成計画」に基づいて、選抜したマラウイ人に牛の人工授精師になってもらうべく、技術や知識を教えることです。そのほか、酪農家に牛の飼養管理技術のアドバイスをすることです。

今回はマラウイ人の挨拶を紹介したいと思います。

マラウイ人はとてもフレンドリーで、道ですれ違うときに挨拶を頻繁に交わします。そして、その際のジェスチャーが何種類もあるので紹介したいと思います。右手を自分の顔近くまで挙げて、お互いの挨拶が終わるまでそのまま手を挙げている形。手を揉むように自分の前で組みながら挨拶する形。握手をしながら挨拶する形。(握手は 2 度、手を組み替え握手の形を変えます。)右手で握手をしながら左手を自分の肘の辺りに添える形。これらの挨拶は、相手との上下関係や距離など状況によって変化しますが、お互いのジェスチャーは同一のものを使います。

若者言葉と呼ぶのが正しいかは分かりませんが、子供から 20 代までで通じる挨拶があるので、こちらで紹介したいと思います。「Bo! Bo! : ポッ!ポッ!」、もしくは「Sharp! : シャープ!」。これらの挨拶は言われた側も同じ返事を返します。とてもカジュアルな言葉なので「元気かい?」、「元気だよ!」といった言葉に相当するようになります。

その際、拳を固めた状態から親指を立てるジェスチャーを同時に行います。それではここから挨拶の際の会話を例に出しながら紹介したいと思います。

マラウイでは一般的な現地語のチェワ語で「おはようございます」に相当するのが「Mwadukabwanji? : ムワヅカブワンジ?」なるべくチェワ語のまま訳すと、「あなたは起床してから調子はいかがですか?」となり、返答は「Ndadukabwino : ンダヅカブイーノ」同様に訳すと、「私は起床してから調子は良いです」となります。通常は相手の調子を聞き返すので、語尾に「Kayainu? : カヤイヌ?」と付けます。これも同様に訳すると「私はあなたの事が分からない」となり、「Ndadukabwino」と返答します。最後はお互いに「Zikomo : ジコモ」と言い合います。これは「ありがとう」という意味があります。

この一連の流れをすれ違いざまに交わすのですが、赴任当初の僕はまだまだ返答が遅く、相手が既に通り過ぎた後に、相手の背に向かって言う状況もしばしばありました。しかし、今ではマラウイ人と同様の速さで返答できるようになりました。

ちなみに「こんにちは」に相当する言葉もあるのですが、「こんばんは」に相当する言葉が無いというのはマラウイでチェワ語を習った際のカルチャーショックの一つでした。

佐藤 健大さん(平成 23 年 7 月)

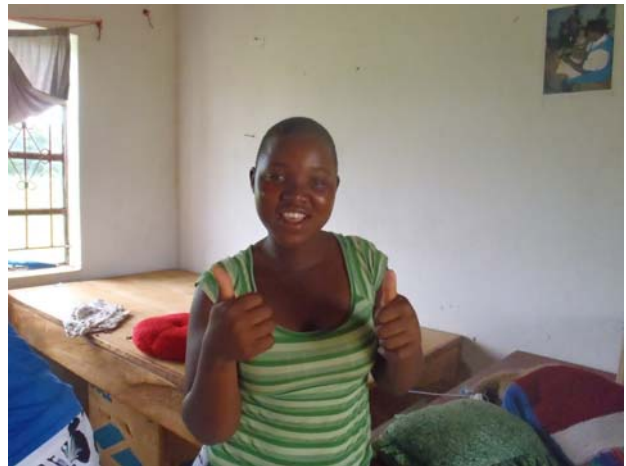
僕は、マラウイ人にとって挨拶は重要なコミュニケーションだと感じます。それを意識したのは、話し込んでいる人達に対しても挨拶を行うことです。会話をしている人達の横を通り過ぎる時には「Wawa: ワーワ」と言い、相手方も「Wawa」と返答をしてくれます。この行為は会話の妨害になるのではと思いますが、何も言わないで通り過ぎるよりは礼儀正しいのですから驚かされます。もし日本ならば、手を挙げたり会釈をしたりなどのジェスチャーで済むので、会話によるコミュニケーションがマラウイでは大事にされているのだと感じます。

挨拶の結びにも出てきましたが、「Zikomo」という言葉はとても万能です。道ですれ違うときに「Zikomo」。久しぶりに会う時に「Zikomo」。もちろん、道を譲ってくれたり、困ったときに助けてくれた時にも「Zikomo」。感覚的には、日本語でも万能な「どうも」に相当するのではないかと思う節もあり、「Zikomo Zikomo」と2回続けて言う所などは、まさにそれだと感じます。しかし、僕は「ありがとう」という意味を持つ事を知っているので、1日に何度も使う「Zikomo」という言葉は大好きです。日本でも、「ありがとう」と頻繁に言う社会になって欲しいと思わずにはられません。

せっかくの機会ですから、今日はマラウイを想像してたくさん使ってみてください。今日は僕の拙い文章を読んで下さり、ありがとうございます。Zikomo。



マラウイアンボーイ



マラウイの挨拶